第二回 新春を寿ぐ

江戸から現代へ〈邦楽と舞踊〉

一月三十一日（日）
開演一時半予定　終演五時十五分予定（三十分前開場）

名古屋城と能舞台　名古屋城　下山浩司所長

邦楽の集い
童謡／松の緑　長唄　森千夏　三味線　市川りき　柴川菜月
吾妻八景　長唄　田中博章　吉住小佐久朗　唄　吉住小三代　上調子　吉住小紀久　三味線
唄　吉住小真莉　杵屋喜尚

舞踊　清元　名寄の寿　坂東美十女　清元節　浄瑠璃　清元清美太夫　清元節　三味線　清元美治郎

新年を寿ぎ
尺八　鹿の遠音　野村幹人
尾張徳川二十二代　徳川義崇

舞踊　長唄　梅の栄　市川九女　唄　吉住小真莉　三味線　吉住小三代　杵屋喜尚　吉住小紀久

箏曲　生田流　宮城道雄作曲　水の変態　中島裕康

箏曲　山田流　山田検校作曲　初音曲　萩岡未貴

◉休憩◉

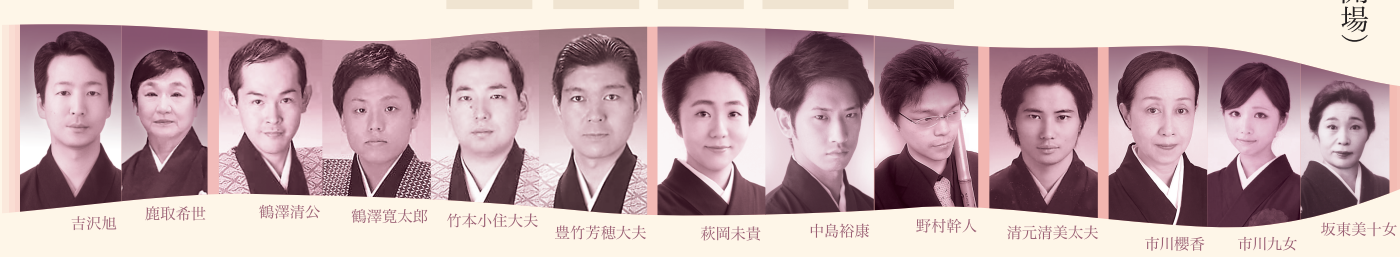
能樂　笛　一管　真之音取　能樂藤田流笛方　鹿取希世

舞踊　清元　北州千歳寿　市川櫻香　清元節　浄瑠璃　清元清美太夫　清元節　三味線　清元美治郎

義太夫　五条橋　文楽座大夫　豊竹芳穂大夫　竹本小住大夫　文楽座三味線　鶴澤寛太郎　鶴澤清公

出演者座談　清元美治郎　吉住小三代　他　全出演者

祝言　高砂　観世流　吉沢旭



【松の緑】
松の緑はご祝儀物の一つ
前弾きが印象的で　唄は高低の
音域が使われ三味線と唄が
特徴的な名曲です

【名寄の寿】
おめでたづくしの歌詞で
「名を寄せて寿ぐ」
お正月のご祝儀曲として作られました
すっきりとまとまっている曲調が
近年まで愛されています

【梅の栄】
うぐいすの鳴く声から始まり
梅を中心にした豊かな御代の初音の
のどかな気分　屠蘇の酔心地や
羽根をつく風情等を唄っています

【初音の曲】
『源氏物語』の「初音」の巻を典拠とし
光源氏が平和な新春を楽しみ寿ぐ
長閑な様子を六歌に読み込んでいます

【北州千歳寿】
四季の描写や廓の情緒などを表現し
曲の中に廓の游客　太鼓持
いろいろな階級の遊女　禿　男衆
馬子　武士など多彩な人物が
登場する名曲です

【吾妻八景】
江戸の名所を辿りながら四季風物を
巧みに綴る詩情豊かな逸品です

【鹿の遠音】
深山に鳴き交わす二頭の
鹿の様子と　そのあたりの情景を
あわせて尺八で描写したものです

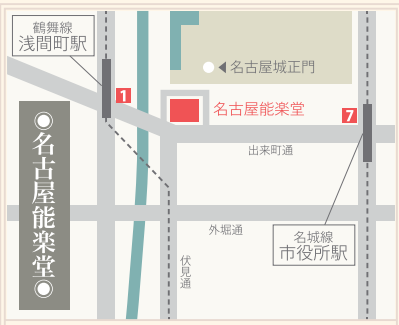
【水の変態】
水の変化を七首の和歌にし
詠んだものを歌詞として作曲
明治四十二年、宮城道雄
十六才の時の作品
霧雲雨雪露霜を描写しています

【真之音取】
音取とは笛の独奏を意味し
江戸時代までは高砂など
神能の開始に演奏されていました
現在では場を清める笛の
独奏曲として重く扱われています

【五条橋】
京の五条大橋で刀狩りをする
牛若丸の噂を聞きつけた力自慢の
武蔵坊弁慶は家来にしようと
七つ道具を持って五条橋へ
若き日の義経　牛若丸と弁慶の
出会いの物語です

【特典】「新春を寿ぐ」のお切符をお持ちの方
名古屋城・本丸御殿が見学できます
下山浩司所長による解説付きです
集合◉一月三十一日当日　午前十一時半
名古屋城　〇五二（二三一）一七〇〇

顧問　小島美子（国立歴史民俗博物館名誉教授）
協力　能樂藤田流十一世宗家　藤田六郎兵衛
主催　日本の伝統文化をつなぐ実行委員会
平成二十七年文化遺産を活かした地域活性化事業



名古屋市中区三の丸一丁目1番1号
名古屋城正門前
電話052-231-0088
【交通アクセス】
・地下鉄鶴舞線「浅間町」1番出口より
・地下鉄名城線「市役所」7番出口より
・市バス「名古屋城正門前」下車すぐ

全自由席　三千円
小中学生　　千円
（当日受付にて販売）

お申し込み用紙　ファックス 052-323-4575	お名前
住所	全自由席
電話	3000円　×　　枚=　　円
ファックス	※小中学生は当日受付にて販売します

チケットご購入 お問合せ
芸文プレイガイド　電話 052-972-0430 / 名古屋能楽堂　電話 052-231-0088 / マネジメント・プロ　電話 052-735-3151
チケットぴあ　電話 0570-02-9999（Pコード448-567） / 中日サービスセンター・プレイガイド　電話 052-263-7282
日本の伝統文化をつなぐ実行委員会　電話 052-323-4499・090-5639-3900　メール mkabuki@docomo.ne.jp